

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年9月17日

【評価実施概要】

事業所番号	0970800652		
法人名	医療法人さくら会		
事業所名	グループホームさくらの家		
所在地	栃木県小山市大字卒島98 (電話) 0285-32-1121		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成20年9月4日	評価確定日	平成20年9月17日

【情報提供票より】(平成20年7月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年1月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人
職員数	9人	常勤7人(うち兼務1人), 非常勤2人, 常勤換算8.7人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り 2階建ての1階部分
------	-------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000円	その他の経費(月額)	・理美容代—2,000円, おむつ代—パット60円・フラット110円 ・おこづかい—20,000円	
敷金	有(100,000円)			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合償却の有無	無(敷金・礼金として。礼金は返却なし。敷金は退居時のクリーニング・補修後に清算)	
食材料費	朝食	200円	昼食	300円
	夕食	300円	おやつ	150円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成20年7月28日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	4名		要介護2	3名	
要介護3	2名		要介護4	名	
要介護5	名		要支援2	名	
年齢	平均 86歳	最低	78歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人さくら会 さくらのクリニック
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成20年4月から法人名称が変わり、ホーム名も「さくらの家」となった。隣地に協力医療機関になっている同法人のクリニックや老人保健施設があり、往診してもらえたり、医師に24時間連絡が取れる体制になっている。医師、看護師、栄養士等の協力を得ながら、食事制限等のある方に対しても細やかな支援をしている。管理者が在宅介護支援センターを担当していたことから、生きがいデイサービスセンターとの交流の中で公民館で運営推進会議を開催したりもしている。ホーム内に託児スペースを設けており、入居者と子どもがふれあう機会もある。ホームだよりを発行したり、預り金報告を明確化したり、市内の他ホームと交流を図り運営の参考にするなど積極的な改善に取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	ホームだよりを発行するにしたり、預り金の報告を明確にしたり、重要事項説明書に苦情相談窓口を明記するなど具体的な改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、いくつかの項目ごとに職員で分担して行い、最終的に管理者がまとめた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	入居者家族、民生委員、自治会長、健康推進員、老人クラブ会員、地域包括支援センター職員などに参加してもらっている。公民館を会場に会議を開いたこともある。ホームを知ってもらうために6月に見学・説明の機会を設け、運営推進会議メンバーである民生委員の方に相談し、20名を超える民生委員がホームを訪れた。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族は利用料の支払で月に1回はホームを訪れており、その際に暮らしぶり等の報告をしており、また必要に応じて電話で連絡をしている。預り金は出納帳で管理し、利用料の請求時にレシートを添えて報告している。毎月職員手作りのさくら新聞を発行している。職員の交代があったときには家族が訪問した際に報告している。重要事項説明書にホーム及び市の苦情相談窓口を明記している。家族が訪れた際には笑顔で対応し、意見・要望等を伝えてもらえるような雰囲気作りを努めている。家族からの意見・要望等は申し送りノートを活用したりして職員間で伝えもれがないようにしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	自治会や老人会には加入していないが、3月までは地域の公民館で実施している生きがいデイサービスに頻繁に出かけていくなどの交流の機会を持っていた。法人全体で開催する夏祭りでは、健康相談や介護教室なども開催し、地域の方に呼びかけて300人ぐらゐの参加があった。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「一人ひとりを大切に ゆったりとした生活を提供します」をホームの理念としている。平成20年4月から法人名称・ホーム名が変更になった。法人の理念は「やさしい医療とやさしい介護」となっており、信頼・満足・専門・連携・誇りを5つの基本としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人理念及びホーム理念が大きめの文字で玄関に掲示されている。朝の申し送りや日常の中で職員間で入居者の状況等を共有しながら理念の実践に勤めている。	○	法人の変更があったり、管理者や少なからぬ職員の交代もあったことから、ホームで大切にすることを改めて話し合い、理念の確認あるいは修正を図っていくことにも期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会や老人会には加入していないが、3月までは地域の公民館で実施している生きがいデイサービスに頻繁に出かけていくなどの交流の機会を持っていた。法人全体で開催する夏祭りでは、健康相談や介護教室なども開催し、地域の方に呼びかけて300人ぐらいの参加があった。	○	管理者が以前、在宅介護支援センターを担当していたこともあり、地域の民生委員や健康相談員などと顔のつながる関係になっている。量敷きである公民館の環境がきっかけとなって、生きがいデイサービスセンターとの交流はなくなっているが、今後も地域との交流を探っていくことに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ホームだよりを発行するようしたり、預り金の報告を明確にしたり、重要事項説明書に苦情相談窓口を明記するなど具体的な改善に取り組んでいる。今回の自己評価は、いくつかの項目ごとに職員で分担して行い、最終的に管理者がまとめた。		

グループホームさくらの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者家族、民生委員、自治会長、健康推進員、老人クラブ会員、地域包括支援センター職員などに参加してもらっている。公民館を会場に会議を開いたこともある。ホームを知ってもらうために6月に見学・説明の機会を設け、運営推進会議メンバーである民生委員の方に相談し、20名を超える民生委員がホームを訪れた。	○	生きがいデイサービスセンターとの交流もあって公民館で運営推進会議を開催するなど、会議の持ち方にも工夫や参加者への配慮が見られる。運営推進会議のメンバーとのつながりを大切にしながら、今後もホームの質の向上を図っていくことに期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	生きがいデイサービスに参加するにあたっての相談や介護計画を作成するにあたっての情報提供など、電話や訪問をして相談している。	○	地域密着型サービスとして、積極的に市に情報を提供しながら、共に質の向上を図っていく関係づくりに期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族は利用料の支払で月に1回はホームを訪れており、その際に暮らしぶり等の報告をしており、また必要に応じて電話で連絡をしている。預り金は出納帳で管理し、利用料の請求時にレシートを添えて報告している。毎月職員手作りのさくら新聞を発行している。職員の交代があったときには家族が訪問した際に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にホーム及び市の苦情相談窓口を明記している。家族が訪れた際には笑顔で対応し、意見・要望等を伝えてもらえるような雰囲気作りに努めている。家族からの意見・要望等は申し送りノートを活用したりして職員間で伝えられないようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職等での職員の交代は多いが、入居者にきちんと挨拶をしたり、周りの職員がカバーしながら入居者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	○	運営者と相談しながら異動や離職を最小限に抑え、入居者との馴染みの関係をつくりやすい環境を整えていくことに期待したい。また、職員が交代する時の家族の不安解消という意味でも、報告の仕方に配慮することにも期待したい。

グループホームさくらの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践研修などには計画的に職員を参加させるように努めているが、外部研修の受講の機会が減っている。外部研修受講後は復命書を書き、回覧をして共有する仕組みになっている。インスリン注射が必要な方のために、法人内の医師、看護師、栄養士などに協力を得て勉強会を行ったこともある。	○	職員個々のレベルアップ・やりがいの醸成のための外部研修の利用、あるいはチームケアのための勉強会や職員会議の開催など、運営者と相談しながら検討していくことを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会に加入している。昨年10月には市内のグループホームを訪問して交流したり、電話で相談できる同業者との関係をつくっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	今年7月までは2階でデイサービスを行っており、デイサービス利用からの入居という例もあった。また、1ヶ月程度、試し利用をして本入居したケースもある。入居当初は必要に応じて家族と協力し、また雰囲気に馴染めるよう声をかけたり言動を良く見たりしながら支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人のできること・難しいことを見極めた支援に努めている。以前よりは入居者が積極的でなくなったが餅づくりを一緒に行ったり、職員が入居者から昔のことを教わったりしている。職員は入居者に穏やかに接している。	○	入居者の気持ちや気分配慮しながらも、生活の中に張りや潤いを感じてもらおうという意味でも、一緒に生活をつくっていく場面づくりや働きかけをしていくことに期待したい。

グループホームさくらの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	趣味や希望、生活暦など普段の生活の中で聞き取り、難しい場合には家族の協力も得ながら本人本位に支援できるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の希望・意見を踏まえ、職員の意見も聞き、必要に応じて法人の看護師や栄養士の助言も得て介護計画を作成している。	○	趣味や生活歴の把握をしており、趣味や本人の持っている力を活かした支援をしていきたいと考えているが、人的な制約等での難しさも感じている。今後も本人や家族、必要な人たちと話し合いながら、より本人本位の支援・計画づくりを追求していくことに期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	長期的には1年の期間で介護計画を作成し、3ヶ月に1回モニタリングを行い、入居者の心身の状態に変化があったときなどは随時見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人の医療機関との連携のもと医療連携体制加算の指定を受けており、医師や看護師、栄養士などに協力を得ている。買い物や外出など柔軟な支援に努めている。		

グループホームさくらの家


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	敷地続きで協力医療機関である同法人のクリニックがあり、24時間連絡が取れ、往診もしてもらえる体制になっている。法人のクリニックでの受診は職員が付き添って受診結果などを家族に報告し、クリニックにない科の受診は家族の対応になるが、経過記録を渡すなどして適切な医療が受けられるよう配慮している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	同法人の医師や看護師、栄養士などの協力を得てインスリン注射が必要な方への支援も行っているが、重度化・終末期の対応はしていない。重度化した場合には家族、ホーム職員、クリニックのスタッフと話し合い、たいいてい場合は退居となっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の言葉かけの仕方や態度はゆったりしており、入居者の誇りに配慮した支援をしている。個人記録等は事務室で適切に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるが、日課等はない。居室で過ごされる方が多く、自室にピアノを持ってきている方もいる。		

グループホームさくらの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつづくり、おしぼりづくり、お茶をさげるなど無理のない範囲で一緒に行ったりしている。職員は、昼食兼休憩時間が12:30~13:30となっており、入居者の食事が終わったダイニングテーブルで弁当などを食している。外食に出かけたり、出前をとったりもしている。	○	生活を共にする者として、職員も入居者と一緒に同じ物を食べるということを検討することに期待したい。また、食事の一連の流れを通した働きかけという意味でも一緒に食事を作ったり、後片付けをしたりといった支援を行っていくことにも期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日だと体に負担がかかるという入居者の意見から基本的には一日おきに入浴を支援している。午前・午後の希望の時間にしたり、お湯の温度や湯量を好みに調節したりとそれぞれの入居者に合わせた支援を行っている。	○	これまでの習慣やその日の希望を踏まえての入浴の支援など、今後も一人ひとりに応じた支援を追求していくことに期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	無理のない範囲で家事の支援に努めている。ピアノを弾いたりする方もいて、居室で過ごされる方が多い。カラオケや輪投げ、お手玉などの機会づくりをしたり、買い物に誘ったりしているが、入居者が積極的にならないことも多い。	○	趣味や本人の持っている力を活かした支援をしていきたいと考えているので、無理強いをしないように配慮しながらも、入居者の主体的な生活を支えられるよう、働きかけ方を工夫したり、チームでアプローチをしていくことに期待したい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望を聞きながら、散歩や買い物、外出の機会を作っている。玄関先にベンチを置いており、日向ぼっこをしたりといったこともある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	構造上、玄関がしまると自動的に鍵がかかるようになっており、常時鍵が閉まっている。	○	構造的な検討をすると共に、支援上の工夫で鍵のない生活を支援することについて検討していくことに期待したい。

グループホームさくらの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	以前は定期的な訓練を実施していたが、この1年は実施できていない。9月に訓練を実施する予定としている。	○	定期的な訓練の実施を期待するとともに、夜間の想定や隣接する同法人の他施設との連携等の確認も行っておくことを期待したい。また、地域の方に協力してもらえよう働きかけを行っていくことにも期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材は宅配を利用しており、カロリー計算がされた献立になっている。同法人の栄養士等にも相談しながら食事制限のある方への支援もしている。特に注意が必要な方について、食事摂取量・水分摂取量については、バイタル等とともに確認・記録している。毎月1回、体重測定をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分が広く、テレビの前のソファのほかにイスが多く置いてある。ホームの和室を使って職員の子どもの託児ルームにしており、子どもとのふれあいの場面もある。中庭の周りを廊下が囲む構造になっており、中庭の草花を臨める造りになっている。気になる音や光、空気のよども等はなかった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	イス、テレビ、冷蔵庫、電子ピアノ、日本人形などを持ち込み、それぞれの居室づくりをしている。居室で過ごされる方が多い。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。